

平成20年 5月1日

関東の森林から

第50号



国民の森林・国有林

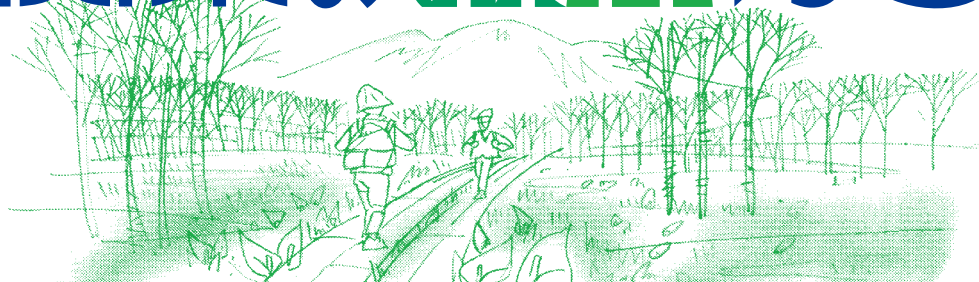
関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



夢見平と三田原山（新潟県妙高市）
（撮影：上越森林管理署 浪岡 保男 氏）

美しい森林づくり

平成20年度関東森林管理局業務運営について

企画調整室長 石 井 洋

私の視点

「美味しいワカサギと森林の関係」

檜原漁業協同組合 代表理事組合長

羽 染 忠 氏



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。



美しい森林づくり

平成20年度 関東森林管理局業務運営について

企画調整室長 石井 洋

平成20年度は、森林・林業基本計画の下で、管理経営基本計画に基づき、公益的機能の維持増進を旨とした国有林野の管理経営を進めることとし、「美しい森林づくり」の推進に向けて民・国の一層の連携を図りつつ、地球温暖化の防止や生物多様性の保全をはじめとする国民のニーズに応えた、多様で活力のある森林の整備や木材の安定供給等に率先して取り組むこととしています。

1 国有林野の管理経営に関する基本方針への取組

ア 保安林指定を推進しつつ、機能類型に応じた森林施業を計画的・効率的に推進すると共に、森林施業の目的や効果等について積極的にPRを図る。

イ 林道・治山事業については、森林の適正な整備・保全の推進を図るため、民・国の連携による効率的な事業に取組み、現地の実態に即した工種・工法等の

採用とあわせ、間伐材等木材の利用拡大に努める。

ウ 森林整備事業や保安林整備事業等を着実に実行し、CO₂吸収源としてカウントできる森林の効果かつ効率的な増加を図ると共にデータ整備を行う。

また、「持続可能な経営から生産された合法木材」の利用促進、「美しい森林づくり推進国民運動」の普及・PRに取り組む。

エ 国有林野の管理経営状況等について、各種の媒体を通じた効果的なPRを行うと共に、高尾森林センター等の活動や国有林モニターを通じた情報・意見・要望等を把握し、これを反映した管理経営の推進等、対話型の取組を推進する。

2 国有林野の維持及び保存

ア 森林の巡視、病虫害の防除等適切な森林の保全を図る。

イ 優れた自然環境を有する森林

の保全・管理等について、積極的に普及・PRを行い、NPO等との協力など、地域と連携した取組を推進する。

3 国有林野の林産物の供給

ア 伐採系森林整備に伴い伐採される素材を通じて生産量の確保を図ると共に、簡易で壊れにくい搬出路の整備と高性能林業機械の活用等によるトータルコストの低減を図ると共に、民有林への普及定着を図る。

イ 間伐材等を安定的かつ円滑に販売するため委託販売・システム販売等を推進し、民・国連携による国産材の利用拡大を図る。

4 国有林野の活用

ア 公益的機能の發揮等との調整を図りつつ、地域における産業振興、住民の福祉の向上に寄与するための活用を図る。

イ 「レクリエーションの森」の整備・活用等を推進する。

ウ 国有林野以外の土地については、事業遂行上不可欠なものを除き可能な限り売り払う。

5 国有林野の管理経営の事業の実施体制及び事業運営

ア 引続き民間委託を推進する等により、効率的な事業の実施に努める。

イ 刷新システムの更なる改善・運用の円滑化、森林GIS等の

活用による事務・業務の簡素化・軽量化を図る。

ウ 人命尊重を基本理念として安全管理体制機能の活性化を図り、職員心の健康保持・増進等を図るため「心の健康づくり対策」の積極的な推進を図る。

エ 各署等の実態に応じた研修やOJTを実施し、実効ある人材育成に引続き取り組む。

オ 林業技術の開発・普及について、国有林野の有する多様な森林とまとまりのあるフィールドを活用した技術開発への取組と成果の普及・定着を図る。

カ 治山・林道・生産・造林の各事業の発注は、一般競争入札(法令で随意契約が認められているものを除く)によることとし、透明性及び競争性の向上を図る。



スギ人工林

新局長に 小林裕幸氏

(4月1日付け)

3月31日付けで、笹谷秀光前局長が退任し、4月1日付けで新局長に小林裕幸氏が就任されました。



小林裕幸
関東森林管理局長

笹谷前局長は、農林水産省大臣官房審議官から19年8月に当局長に就任し、在任期間は8ヶ月でした。

4月4日(金)新旧局長の事務引継が行われ、午後には両氏から職員に対し次のようなあいさつがありました。

笹谷前局長から、「国有林について、国民からの要請に応えるには、抽象的な表現ではなく、自分で十分に理解したうえで、全体の位置づけで説明するというのが必要です。

これを実行するには、何と云っても大事なものは、やはり人・皆様方です。

国有林は多彩な能力と経験を持っている素晴らしい組織です。

また、他の組織との違いは、技術力です。技術力とノウハウを持ち、そして、現場からの発信力、即ち、ネット

トワークが非常に強い組織であることを心強く感じました。」との退任のあいさつがありました。

小林新局長からは、「このたび、関東森林管理局長を拝命しました小林です。

私は、国有林野事業を担当した経験はありませんが、林野庁の民有林の担当部局に2回計5年間勤務したことがあります。

その間、国有林を含む我が国の森林・林業について様々な方と議論し各地の現場をみせてもらい、奥の深い魅力ある行政分野であると感じて

おりました。

そのため、林野行政を離れた後も、毎年1回ないし2回は全国の林業地域を休日にも個人的に見学させて貰うなど、森林・林業の動向については関心を持ち続けてきたつもりです。そうした中で、今回、国有林野事業に携わることができるとなると、大変嬉しく思っております。

国有林野事業については、収入と支出のバランスをとらなければならぬという企業的な側面と、一般国民の森林・林業に対する期待・要請にどう応えるかといういわば行政的な側面を両立させなければならぬという大変難しい仕事であると考えております。

しかも、林業の実態も、また、国民の森林に対する要請もここ数年の間だけでもかなり変化してきております。こうした変化に柔軟にそしてしっかりと対応しつつ、企業的な側面と行政的な側面を両立させるため、私はできるだけ現場を見、そこに働く方々の声を直接聞きたいと思っております。

経験の浅い局長ですのでいろいろとご迷惑をおかけすると思っておりますが私なりに精一杯やっていきたいと思っておりますので、あまり敷居を高くせず気軽に声をかけていただければありがたいと思います。」との着任のあいさつがありました。



着任あいさつをする小林新局長



小林新局長と笹谷前局長

関東森林管理局長

小林裕幸

(略歴)

- 出身 兵庫県
- 昭54・4 農林水産省入省
- 昭56・4 長野県中野市農政課
- 昭63・5 外務省ロス・アンジェルズ日本国総領事館
- 平3・9 林野庁林政部森林組合課課長補佐
- 平11・7 林野庁林政部森林組合課長
- 平16・7 大臣官房経理課長
- 平19・7 農林水産省大臣官房協同組合検査部長
- 平20・4 関東森林管理局長

赤谷プロジェクト 近況報告

モリゾーとキッコロが 「赤谷の森林」に やってきた



「モリゾー・キッコロ ©GISPRI」

今年もモリゾーとキッコロがやって来ました

昨年度に引き続き、NHK教育番組「モリゾー・キッコロ『森へ行くよー!』」の撮影のため、モリゾーとキッコロが「赤谷の森」にやって来ました。この番組は、子供達がモリゾーとキッコロと様々な自然観察体験することを通じて、生きものと環境の関わり、人の暮らしとの関係について学んでいく環境教育番組です。

今回は、地元小学生数名が参加し、バードウォッチングやアナグマの巣



雪の上のフィールドサインからどんな動物が暮らしているか調べます

穴を潜望鏡で観察、雪の上に残った足跡や糞などのフィールドサインから、「赤谷の森」に生息する動物について調査を行いました。

撮影された内容は、5月3日(土)に「なぞの巣穴を調査せよ!」、5月10日(土)に「鳥たちの、おもしろことば」を探せ!」として放送される予定です。

番組は今年度、全30回のうち10回を「赤谷の森」をフィールドとして放映され、さらに4回が総集編として放映される予定です。是非ご覧になって「赤谷の森」の四季を楽しんでいただければと思います。

放送チャンネル NHK教育テレビ
放送時間 毎週土曜日

9時50分～10時5分
(再放送・毎週日曜日
17時35分～17時50分)

4月の「赤谷の日」

赤谷プロジェクトの仲間が「いきもの村」に集う「赤谷の日」が4月5～6日に実施され、赤谷センター職員外、総勢約20名の仲間が参加しました。早春の「赤谷の森」の動植物の観察を中心に、自然環境モニタリング活動を行いました。

今回は、赤谷林道他で雪の上や雪解け後の地面から糞を採取することにより、ホンドテンモニタリングを行いました。植物性の糞には、ツルウメモドキの種子が見られたことから、昨年秋季の糞であることが推測されます。今後もデータの蓄積を図り、ホンドテンの生態調査を進めていきます。

また、これまで「赤谷の森」を長



春の妖精 (スプリング・エフェメラル)
「福寿草」



「クロサンショウウオ」の卵が見つかりました

期にわたってモニタリングするため、赤谷サポーターの企画で始まった、ブナ、ミズナラなどの実の豊凶調査を行ってききましたが、今回は、調査範囲を旧三国街道沿いのイヌブナも対象とするために準備を行いました。必要となる豊凶トラップの袋が少ないので、いきもの村で豊凶トラップの袋をミシンで縫い合わせ、修理・作成しました。

さらに、いきもの村近くの湿地の調査を行いました。今回は水生動物の生活環境を狙いとし、雪解け後に出来た水面の状況等を調査しました。調査では、準絶滅危惧種であるクロサンショウウオの卵塊が確認できました。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

幹部の異動

4月1日付 () は前職

▽企画調整室長 石井 洋

(山梨県北杜市産業観光部林政課長)

▽総務部総務課長 加藤 要助

(総務部総務課長)

▽総務部経理課長 芝田 茂樹

(計画部 国有林野管理課長)

▽計画部計画課長 林 視

(林野庁森林整備部研究・保全課課長補佐)

▽計画部国有林野管理課長 井坂 昇一

(茨城森林管理署次長)

▽森林整備部森林整備課長 飯塚 淳

(林野庁森林整備部整備課課長補佐)

▽森林整備部治山課長 加藤 昭広

(林野庁国有林野部業務課課長補佐)

▽赤谷森林環境保全ふれあいセン

ター所長 田中 直哉

(農林水産省農村振興局企画部農村政策課課長補佐)

▽計画部指導普及課高尾森林センター所長 森本 俊作

(企画調整室企画官)

▽東京神奈川森林管理署長 我孫子 浩

(林野庁国有林野部管理課監査官)

▽静岡森林管理署長 永井 寛

(近畿中国森林管理局福井森林管理署長)

▽福島森林管理署長 外山武比古

(東北森林管理局仙台森林管理署長)

▽伊豆森林管理署長 柏木 治美

(環境省中国四国地方環境事務所野生生物課長)

▽下越森林管理署村上支署長 岩佐 利昭

(企画調整室監査官)

▽山梨森林管理事務所長 三浦 祥子

(農林水産省大臣官房企画評価課企画官)



新規採用者の紹介

「美しい森林づくり」の新たな担い手

4月7日、各森林管理署等へ配属された新規採用者等19名が新採用研修の開講式に臨みました。

新規採用職員等Ⅱ種8名、Ⅲ種11名の総勢19名を紹介します。

採用者は、研修後それぞれの所属先で職務につきますが、先輩方も厳しさの中にも思いやりを持って、指導等よろしくお願いします。

新規採用者Ⅱ種

福島森林管理署

三浦 沙織

磐城森林管理署

渡邊 翔太

利根沼田森林管理署

住榮 貴恵

東京神奈川森林管理署

鈴木 哲平

下越森林管理署

牧野 拓也

下越森林管理署村上支署

川手 晏孝

静岡森林管理署

猪俣 須恵

高尾森林センター

佐藤 匡

(平成20年2月採用)

新規採用者Ⅲ種

福島森林管理署

内海 洋太



フレッシュな顔ぶれの19名

磐城森林管理署
棚倉森林管理署
茨城森林管理署
塩那森林管理署
日光森林管理署
群馬森林管理署
中越森林管理署
天竜森林管理署
伊豆森林管理署
大井川治山センター

江田 優尊
寺澤 翔太
田中 大貴
長 陽一郎
原 志郎
齋藤 秀樹
坂森 太朗
小黒 亮真
吉澤 竜耶
吉澤 和弥

労働災害の撲滅を願う

安全祈願

平成20年度関東森林管理局の安全祈願式が4月8日(火)前橋市総社町の上野総社神社において、小林局長、上村総務部長、鈴木森林整備部長ほか関係課長等が出席し、厳粛のうちに執り行われ、重大災害の撲滅を期するとともに、ゼロ災害を祈願しました。

平成19年度における労働災害の発生件数は9件で、前年度に比較し4件減少しましたが、災害の発生内容を見ると、「足が滑った」「つまづいた」等による転倒など、多くが作業環境の確認不足や基本動作の遵守が不十分であると考えられる災害です。
災害を起こさせないためには「危ないことを危ない」と予知する感受性の醸成が必要です。KYTの実践で安全の先取り活動をお願いします。

また、平成20年度から平成24年度を推進期間とする「第8次関東森林管理局労働災害防止対策要綱」が策定されました。その基本方針は、人命尊重を基本理念とし、現場実態に対応した安全管理体制の機能の活性化、安全で正しい作業

方法の徹底など、適切な安全管理の積極的推進等に努め、重大災害の撲滅を期することはもとより、ゼロ災害の目標達成に向けて労働災害の未然防止を図ることとしていきます。

第8次要綱における目標は、第7次要綱の推進期間(平成15年度から18年度)における度数率、強度率から20%減少の「度数率4.10」、「強度率0.06」を目標としています。全産業の平均(平成18年度)の度数率1.90、強度率0.12と比較しても是非達成しなければならぬ目標です。このため、「的確な指導」と「確実な遵守」を職員全員が自覚し、災害の未然防止に努めましょう。



安全を祈願する局幹部

(職員厚生課)

各署便り

木になる庁舎がオープン

「上越署」当署の新庁舎が完成し、3月17日(月)、「新庁舎落成式」を開催しました。

国内有数の豪雪地帯でもあり、鉄筋コンクリート造で建築される庁舎等が多い中で、地元のブランド材である「越後杉」をはじめ国産材をふんだんに使用した木造建築で、雁木通り風のひさし、石垣を思わせる土台等城下町である地域の特色を反映させた外観となっています。

また、高田城址の公園整備を進める上越市からの要請で、これまでの所在地である高田城址から、官公庁誘致を目的に区画整理された関川東部オフィスアルカディア地区に移転の上、新築したものです。

落成式では、関係機関・団体の長等40名のご来賓のご臨席の下、局長(当時)及び署長による庁舎標札除幕、ご来賓らによる新庁舎オープンとなるテープカット、式典等が行われ、知事代理の渡邊正上越地域振興局

長、木浦正幸上越市長からご祝辞を賜り滞りなく終了しました。

ご来賓から、「木の香りがいいですね」「庁舎が綺麗ですね」などのほか、「建物全部が木造ですか」と感心する声も寄せられました。

また、3月19日(水)には、市民36名の参加を得て、「新庁舎見学会」を開催しましたが、「木造にはぬくもりがあつていい」などの感想が寄せられるとともに、今では珍しい大型の木造建築に感心した様子でした。



「越後杉」等を使用した新庁舎

(流域管理調整官 山下 聡)

国有林間伐推進コンクールで
優秀賞を受賞

〔茨城署〕 茨城署は2月20日（水）、（社）茨城県林業協会との共催による林業技術研修会において、平成19年度国有林間伐推進コンクールで優秀賞を受賞した（株）ヨシナリ林業吉成良二代代表取締役（茨城県大子町）の林野庁長官表彰授与式を行いました。



優秀賞を受賞した（株）ヨシナリ林業

関東局では、前年度同コンクールで最優秀賞を受賞した（有）佐川運送（佐川文教代表取締役（茨城県高萩市））に引き続き栄誉で、いずれも当署管内の請負事業において積極的に高性能林業機械を活用している林業事業体です。

受賞したヨシナリ林業は、平成19年度の当署発注の請負事業で、平均林地傾斜が39度の急傾斜地の間伐箇所において、ザウルスロボやスイングヤーダ等を駆使、急傾斜地における低コスト作業路網作設と高性能林業機械の積極的活用による高生産性・低コスト作業を実践し、受賞となったもので、急傾斜地における高性能林業機械の活用事例として推奨されたものです。

（業務第二課長 梶井昌克）

国有林野保護監視員
会議の開催

〔村上支署〕 雪解けも間近に迫った3月17日（月）国有林野保護監視業務の向上と監視員相互の意見交換等を目的として、国有林野保護監視員会議を開催しました。

会議の冒頭、約30数年間に渡り、保護監視員としてご尽力された、村上三日市在住の須貝信蔵氏に永年にわたる監視業務に敬意を表し、地元産スギ材で作成した特製の感謝状と記念品を贈呈しました。

支署長から委嘱者一人ひとりに保護監視員委嘱状・証明書及び腕章の交付を行なった後、管理係長から、国有林野保護監視員制度の概要、巡視の方法、緊急連絡体制及びボランティア保険等の説明を行いました。続いて、プロジェクトを用いて、当支署が市民参加型で進めている「美



保護監視員会議で説明をする目黒支署長

しい森林づくり」事業の取組事例を業務課長が紹介し、その後、質疑応答意見交換を行いました。

保護監視員の方々から「もっと監視員の人数を増やしたらどうか」、「山岳会や地元ボランティア団体等とも連携し合同会議を開催したらどうか」、等々の意見が出されました。今回の会議は、監視員の方々の保護監視業務への意欲がヒシヒシと伝わってくる大変有意義な会議となりました。（管理係長 青砥一之）

遊々の森
「くまの森」を設定

〔五妻署〕 3月25日（火）、六合村役場において山本六合村長立ち会いの下、管内初の遊々の森である「くまの森」の協定を、六合村教育委員会

と締結しました。

設定場所は六合中学校の裏手に位置する国有林1.05ヘクタールで、大きなクルミヤクリなどで、明るい広葉樹林の林となっており、地元の方々から「胡桃平」と呼ばれ親しまれてきたところです。

近くには小学校や子ども園もあるため、村では「六合村の子供も都会の子供と同じように自然の中で遊ぶ機会が減っているのがありがたい。園児も連れていける。教育の場として活用したい。」など、今後の活用を期待を膨らませています。

署としても、協定した「くまの森」を大いに活用してもらおうとともに、子供たちに自然とふれあうていただき、森林の持つ素晴らしい機能を、森林教室などを通じて伝えていけたらと考えています。



六合村教育委員会茂木教育長（左）と田尻署長（右）

（六合森林官 中島豪威）

森林官からのおたより

静岡森林管理署 上井出森林事務所

森林官 千葉 賢史

富士山国有林12、418号は富士山の静岡県側、標高8000mから3、200mの間に扇状に広がっており、富士市・富士宮市・御殿場市・裾野市・小山市の4市1町に跨っています。

私の担当する上井出森林事務所はそのうちの富士宮市分をほぼ管轄し、富士山西側の山梨県境から南までの5、100号にわたっています。管内には日本最大級の土砂崩れとして知られている大沢崩れもあります。

私の朝一番の日課は、官舎の窓を開け、今日の富士山はどんな姿をしているのか、確認することです。毎日のこととは言え

その大きさにまず圧倒され、今日の仕事への思いに力が入ります。

また、夏は雲がよくかかるため朝は姿が見えないことも多いのですが、山仕事の途中や帰りの道すがら山頂だけぽっかりとみえたり、冬は山頂の雪が厚く積もり地形をなだらかにしていたのに、昼間の風に吹き飛ばされ夕方方には地肌が覗いていたり、季節・時間により見え方が全く違う



崩壊がつづく大沢崩れ

ため見飽きることはありません。

帰省等で富士宮を離れる時にも、行き帰りの車中とはより、出先の新聞やテレビでも富士山の姿を確認してしまいます。いつの間にか、富士山の姿を確認することが生活の一部になりました。

一般の方に、富士山で林業を行っていることや人工林が広がっていることとお話すると驚かれます。



列状間伐後の森林

実際には、標高1、600mあたりまでヒノキやモミ等の人工林が広がっており、間伐等を行い立派な山になるように手を入れています。しかし現在、管内ではシカがヒノキやモミの樹皮を剥ぐ被害がよく目に付くようになりました。麓で追いやられたシカが上へ上へと国有林内に逃げてくるようで、その数はシカとあわない日がないほど増えています。

このままではいずれ長年育てた木が壊滅的な被害を受けるのではないかと危惧しています。そのため、幹に防除用のテープやネットを巻いたり、下刈りや除伐の仕方を工夫したりして樹皮剥ぎ対策をとっています。しかし、どの木が狙われるかなどわからないことも多く、効果的な防除法はないものと試行錯誤の毎日



植栽木を守る獣害対策

です。

日本一の山・富士山で働くことを誇りに思うとともに、私の仕事によって将来の姿が形作られていくと思うと、ますます責任の重さを痛感させられる今日この頃です。

富士山の森林官として1年が経ち、迷った時、わからない時には、親身になって相談できる先輩や基幹作業職員の支えがあったからこそ頑張ってきたと思います。世界文化遺産の暫定リストに登録されるなど、富士山の価値や注目度は今後益々上がっていくでしょう。

これからも支えとなる周りの皆さんと共に、また自分なりに勉強したことを発揮しながら、富士山の管理により一層努めていきたいと思えます。

私の視点 「美味しいワカサギと森林の関係」

檜原漁業協同組合 代表理事組合長 羽染 忠

清らかな水と恵まれた自然を守り育てるには、森林が大きな役割を担っております。

福島県磐梯朝日国立公園の中にある檜原漁業協同組合は檜原湖、小野川湖の自然環境を保護、管理しています。

また、水産物増殖と保護に力を入れている団体で、ワカサギをはじめ、コイ、フナ、ヤマメ、イワナ、ウグイなどを放流しており、年間、約75,000人の遊漁者が訪れる日本一のワカサギ釣りの湖を保持しております。

湖は全体を森林に囲まれ、常に山々に保たれた清水が流れ込んでいる堰止湖です。その影響か檜原湖の魚は実に美味しく、その中でもワカサギは特別に美味しいと大勢の方々に愛されております。冬期間は太公望達の釣る醍醐味もありますが、ワカサギを味わいにわざわざ遠方から訪れる人も多く高価



檜原漁業協同組合の
羽染代表理事組合長



カラフルなテントが並ぶ
檜原湖ワカサギ釣り風景

で取引されています。

ところで檜原漁業組合と会津森林管理署の繋がりは意外なところで深く、1948年（昭和23年）檜原湖に檜原村民と営林署（現森林管理署）職員とによって初めて「ある魚」が産声をあげたのです。そう、ワカサギです。当時は檜原湖でワカサギを釣ろうなどと村民は誰も考えていませんでした。檜原湖の水が濁水した時期に氷を割り、雪を埋めて「追い込み」という方法で魚を捕っていたのです。

檜原湖で穴釣りが始められたのは、ワカサギを放流してから10年後の昭和33年からです。当時の資料を見ると、猪苗代営林署

長（現会津森林管理署）の「金森徹雄氏」は諏訪湖から取り寄せた産卵箱を檜原湖に沈めて二週間、ワカサギの稚魚の誕生を一日千秋の思いで待ったそうです。

湖から引き上げた産卵箱、箱から流れ落ちる稚魚をみてどれだけ興奮したことだろうか、「大きくなるんだぞ〜」ワカサギの稚魚に呼びかけ手を振ったそうです。

戦後間もない時期、貧困に喘ぐ村民の生活を救ってやりたいと思う金森氏の心の内を思うとその姿が目に見えるようです。

北塩原村では昭和53年、金森氏の業績をたたえ、感謝の気持ちを伝えながら、特別功労賞と感謝状を贈呈しております。

現在においても観光資源として「ワカサギ」は北塩原村にとって最大と言っても過言ではありません。

事実、冬期間のワカサギに係る



国有林を活用したワカサギ等のふ化場



晩秋の檜原湖と会津磐梯山（裏磐梯）

収入は、遊漁券はもとより民宿、ホテル等の宿泊、それにワカサギ小屋の集客は他に類を見ないほどの勢いがあります。

これほど恵まれている場所が他にあり得るだろうか、いつもそう感じております。それはこの豊かな大自然があってこそこの恵みであり、私達はこれを守り、半永久的に継続していかなければならぬと確信しているところです。

現在、温暖化が進み大きな問題となっておりますが、CO₂だけの問題ではなく森林も大きな役割を持っているはずで、森の恵みを抜きにして檜原湖のワカサギは考えられません。

美味しいワカサギがいつまでも食べられるように森林を絶やしてはいけません。私は思います。

今後においても漁業協同組合員、会津森林管理署、一般遊漁者の協力と連携をもって豊かな湖を森林とともに守っていききたいと思っております。

森林環境教育

ミーティングを開催

平成20年2月29日(金)、高尾森林センターにおいて、東京都森林課、(独)森林総合研究所多摩森林科学園、高尾森林センター及び局指導普及課との間で、森林環境教育ミーティングを開催しました。

この会合は、各機関が持っている森林環境教育の研究成果やノウハウ、アイデアなどの情報交換や意見交換を行い、それらを共有し活用して、森林環境教育の充実等を図る目的で開催したものです。

会合では、それぞれの取組事例を紹介した後、意見交換を行い、「国有林では体験フィールドや講師の確保が難しい」「中学等のインターシップの受入れ



森林環境教育ミーティングの様子

だけでなく、年に数回実施することを申し合わせて散会しました。

(指導普及課)

「森林のともだち サポート協定」を締結

近年、市民の皆さんが、森林ボランティア活動等に参加するようになり、当局管内においても、年間400回以上、参加者17,000人にのぼる活動が行われています。

こうしたニーズにこたえて、森林づくり・森林環境教育活動等に関し、各種情報提供等相互の連携・協力を進める「森林のともだちサポート協定」制度を発足させ、この制度にご賛同いただいた群馬県林業技士会と第一号の協定を、3月25日(火)に締結しました。

今後とも、NPO等と連携しながら、



群馬県林業技士会 伊藤会長(左)と 笹谷前局長(右)

森林づくり・森林環境教育活動等への支援の充実を図っていく予定です。

(指導普及課)

一枚の写真



旺盛な成長を示す目兼スギ

この写真は、国有林野特別経営事業として明治33年から41年にかけて植栽された目兼スギ展示林のものであります。

所在は、福島県いわき市山玉町仏具山目兼の国有林であり、このうち約7鉢が展示林として保存されています。

この林分は1929年(昭和4年)林業試験場技師の河田博士に間伐の実施指導を委嘱し3つの間伐試験地を設定して第1回目の間伐を実行しており、現在までに5回

の間伐を実行しています。

試験地の1号区は普通間伐施行区(寺崎式)、下層間伐、2号区は上層間伐施行区、3号区は各層間伐施行区(河田式)に区分されています。

現在の林分状況は、平均胸高直径60センチ、平均樹高35メートルであり1鉢当たりの蓄積は1,000立方メートルを超えています。

林内は、間伐により十分な光環境が確保され、サワアジサイやクサギ、ジュウモンジシダ、モミジイチゴな

どの植物が多く生育しています。

またこれまで生産された間伐木の材質についても、①年輪の芯が材の真ん中 ②年輪幅が均等 ③材は赤みが多く白太が少ないなどの特徴があり、優良材として高い評価を得ています。

100年を超える目兼スギは、現在においてもきわめて良好な成育を示すとともに、今後の長伐期施策を推進するための参考林としても貴重な森林です。

(磐城署 広報連絡官 高橋忠男)

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027)210-1115
FAX(027)210-1115

